

氏名	光岡晋太郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第2958号
学位授与の日付	平成7年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Multivisceral Transplantation in pigs: A clinicopathological Analysis of Tissue Rejection (ブタを用いた多臓器移植術—組織拒絶反応の臨床および病理学的解析—)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 清水 信義 教授 中山 睿一

学位論文内容の要旨

ブタを用いた多臓器移植術 (MVTX) の手技を確立し、移植臓器の拒絶反応について検討を加えた。MVTXとは、肝臓、膵臓、脾臓、胃、十二指腸、小腸、大腸を同時に移植する方法であり、我々はDulock-Jersey系をドナー、Large-white系をレシピエントに用いた。

MVTX22例施工し、5日以上生存した9例を評価の対象とした。移植後5日目、既に十二指腸と小腸には軽度の拒絶反応が認められたが、他の移植臓器には拒絶反応は認められなかった。移植後10日目、肝臓、膵臓、大腸にも軽度の拒絶反応が認められ、十二指腸、小腸は中等度の拒絶反応を示したが、胃のみ拒絶反応が認められなかった。移植後16日目全ての移植臓器に拒絶反応が認められたが、拒絶反応の程度に臓器間較差がみられ、十二指腸、小腸は高度、大腸は中等度、肝臓、膵臓、胃は軽度であった。

ブタを用いた多臓器移植術を行い、手術手技と術中術後管理を確立すると共に、同時に移植した各臓器の拒絶発現の時期及び程度に臓器間較差の生じることを示した。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究はブタを用いた多臓器移植術 (MVTX) における移植臓器の拒絶反応について検討したものです。手術手技と術中術後管理を確立すると共に、移植臓器の拒絶発現の時期及び程度に臓器間較差の生じることを明らかにしており、移植治療の新たな方法としてのMVTXについての価値ある業績である。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があるものと認める。